

採種産地を次世代につなぐスマート営農体系の確立支援(津市)

取組主体：三重県米麦協会 取組年度：令和元年～

キーワード：機械除草、水管理システム

水稻(採種)

1 産地の概要

<産地の現状・課題>

- ・水稲農家における種子更新率は約90%と高く、流通する種子のうち県内産が75%を占めていることから、種子の安定供給には、種子生産規模の維持が重要である。
- ・種子生産では、一般栽培よりも種子への異物・異品種の混入防止対策が高度に求められる。
- ・種子への異物・異品種対策には、きめ細かな水管理や水田内除草が有効であるが、多くの時間と労力が必要となることから、新規に種子生産に参入する後継者が不足し、高齢化および減少が進んでいる。

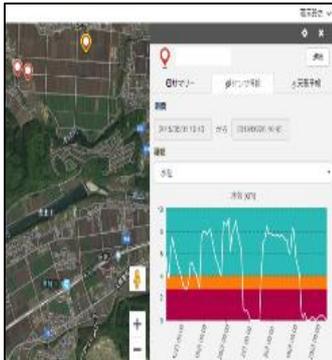
2 取組体制

<構成員と役割>

- ・三重県米麦協会(役割:会計、検証機械調達、品質評価)
- ・JA三重中央(役割:生産者への指導、検証支援、効果検証)
- ・白山採種部会(役割:ほ場管理、労務データ等提供、効果検証)
- ・三重県農産園芸課(役割:連絡調整)
- ・三重県中央農業改良普及センター、津地域農業改良普及センター(役割:生産者への指導、検証支援、効果検証)



水管理システム(水位センサ)の設置



機械除草の様子

3 新たな営農技術体系の確立に向けて

<目指す産地像>

スマート農業技術を活用した採種ほ場における管理作業の省力化を図ることで、産地規模を維持するとともに、後継者を確保している産地



①水管理システムの導入
②乗用型除草機の導入



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ・除草作業時間【現状】手取り:4.9時間/10a ⇒ 機械:15分/10a
- ※機械除草後、雑草が再発した場合は、複数回手取り除草を実施